

資料 1. 次世代型博物館計画検討委員会設置要綱

(目的)

第1条 本市のこれまでの博物館計画を踏まえた、次世代型博物館計画策定にあたって、新しい時代に求められる札幌市の博物館のあり方、役割、機能及び、その内容について、専門的な立場及び市民の立場からの意見を聴くため、次世代型博物館計画検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は次世代型博物館計画について、出席者が意見交換を行うものとする。

(構成)

第3条 委員会は学識経験者その他文化部長が適当と認めるものの中から、公募により選出された者2名を含む10名以内の委員で構成するものとする。

(設置期間)

第4条 委員会の設置期間は委員が協力依頼を受けた日から、平成26年9月30日までとする。

2 委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(座長等)

第5条 委員会には、座長及び副座長を置くものとする。

2 座長及び副座長は、委員の互選により定める。

3 座長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副座長は、座長を補佐し、座長に事故あるときはその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、文化部長が必要に応じて招集する。

(オブザーバーの設置)

第7条 委員会には数名のオブザーバーを置き、委員会の会議に出席を求め、意見を聴くことができる。

(意見の徴取)

第8条 座長が特に必要があると認めるときは、委員会の会議に、委員・オブザーバー以外の者の出席を求め、資料の提出を受け、意見を聴くことができる。

(部会)

第9条 委員会はその所掌事項に係る特定の事項について、専門的な意見交換を行うため、博物館に係る学識経験者からなる部会を置くことができる。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、観光文化局文化市民文化課において処理する。

(その他)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、文化部長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成24年6月7日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

資料2. 次世代型博物館計画検討委員会名簿

■委員(10名)

(敬称略、氏名五十音順)

氏名	所属・職名
石森 秀三	北海道開拓記念館 館長 北海道博物館協会 会長
右代 啓視	北海道開拓記念館 学芸部 主任学芸員
大原 昌宏	北海道大学総合博物館 副館長 教授
坂井 文	北海道大学 大学院工学研究院 都市計画研究室 准教授
酒井 正幸	札幌市立大学 デザイン学部長
佐々木 亨	北海道大学 大学院文学研究科 歴史地域文化学専攻 教授
佐藤 弘毅	市民公募委員 日本銀行
沼崎 麻子	市民公募委員 北海道大学 大学院理学院 博士後期課程
松枝 大治	北海道大学 名誉教授 前北海道大学総合博物館長
松本 文夫	東京大学総合研究博物館 特任准教授

■オブザーバー(2名)

氏名	所属・職名
栗原 祐司	国立文化財機構本部事務局長 東京国立博物館総務部長
辻井 達一 (故人)	元北海道環境財団 理事長 元北海道大学農学部 教授、同附属植物園長

資料3. 展示案

ア) エントランス展示・ポータル展示²⁸

思わず近づき足を止める、目をひく展示とともに、導入として、札幌の自然と人を概観する展示を展開。

サッポロカイギュウ
小金湯産クジラ
厚田産アルビレオ科イルカ
復元・復原標本

5つのサブテーマをイメージする展示概要等導入展示



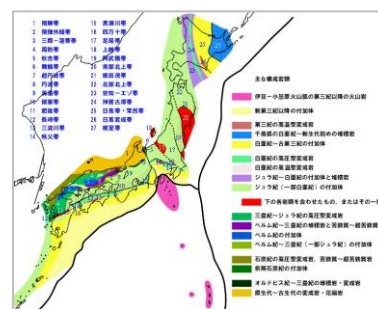
イ) さっぽろの独自性を示す5つのサブテーマ展示

サブテーマ1：さっぽろの自然景観の形成

札幌の地盤を形成する石狩低地帯は、南からのプレートの移動に、日本海とオホーツク海の拡大、さらに太平洋プレートの沈み込みによって形成されたという、国内はもとより世界的に見ても独自の形成過程を持っています。

札幌の美しい自然景観は、プレートの衝突による、激しい地殻変動や火山活動などの痕跡です。

札幌市は、政令指定都市として唯一、市内に国立公園（南区の山地の一部）及び国指定天然記念物（藻岩原始林・円山原始林）がともに存在し、多様な環境と豊かな自然が保持されています。



日本列島の地質構造（産総研）



薄別の約1億年前の地層（南区）

【サブテーマ1のシナリオ案】

- 1 白亜紀（1.4 億年～6600 万年前）～中新世（2300～533 万年前）の海の時代
 - ①薄別層－白亜紀の地層・プレートの運動と日本列島の形成－
 - ②小樽内川層－巨大生物の誕生する海・小金湯クジラとサッポロカイギュウ－
 - ③石狩平野の基盤形成－日本海・オホーツク海の開口と太平洋の沈み込み－
- 2 鮮新世（533 万～258 万年前）：火山の活動とその恩恵
 - ①藻岩公園－海底火山活動－
 - ②藻岩山・円山・三角山・手稲山－成長する活火山－

- 3 更新世（258万～1.17万年前）：今も続く東西圧縮
 - ①野幌丘陵・月寒丘陵一直下型地震の痕跡―
- 4 完新世（1.17万年前～現代）：氷期から間氷期へ
 - ①支笏火砕流―石山緑地公園：大災害の痕跡と札幌軟石の誕生―
 - ②手稲山地崩れ―タンネ・ウエン・シリ（アイヌ語）：長い・悪い・山の誕生―
 - ③豊平川とV字谷―豊平川のエネルギーと定山溪の景観―
 - ④豊平川河岸段丘―真駒内公園に刻まれた川の成長記録―
 - ⑤豊平川扇状地の形成・平岸面と札幌面―扇状地の成長―
 - ⑥精進川とトイ・ピラ（アイヌ語）―豊平の語源となる崖を削った川―
 - ⑦メム（アイヌ語）：湧水池の形成―地下水の恵―
 - ⑧月寒川・厚別川・野津幌川―月寒台地を削る川―
 - ⑨札幌の湿原―残された原風景―
 - ⑩星置の海食崖―縄文海進の証し―
- 5 緑の森の形成と現在の自然



手稲山の地すべり地形

サブテーマ2：さっぽろの生命と生物の進化

札幌の環境を決定した最も重要な要素は、札幌が極と赤道の中間に位置する北緯43度にあることです。札幌は、地球全体の寒冷化や温暖化の影響を受けやすい中緯度にあることで、地球規模の気候変動にともない、これまでに多様な環境をくりかえし経験してきました。

札幌の過去から現在に至る生物の変遷は、地球規模の変動に伴う札幌の環境変化の多様さ、ダイナミックさを反映しています。例えば札幌で産出した海牛類¹⁶、鯨類¹⁷の化石は、地球環境の変動と動植物の適応進化を受けて、世界で最初に大型化した、環境と生物進化と生物多様性の関連性を実証する世界的にみても貴重な標本です。

環境の多様性は生命の誕生や生物の進化に影響を与え、私たち人類の進化にもつながっています。



サッポロカイギュウ



小金湯産クジラ化石クリーニング作業

¹⁶海牛類の化石：例としてサッポロカイギュウ。これは海牛目に属する哺乳類で、平成14（2002）年に豊平川で発見された約820万年前に生息していた世界最古の大型海牛とされ、海牛類の大型化の時期とメカニズムを示す貴重な資料として世界的に注目される。

¹⁷鯨類の化石：例として厚田産アルビレオ科イルカ、小金湯産クジラ化石。厚田産は鯨偶蹄目ハクジラ亜目マイルカ上科アルビレオ科に属するハクジラで、北西太平洋域では、厚田村（現：石狩市）から初めてその化石が産出した。小金湯産は研究中。

【サブテーマ2のシナリオ案】

-1 生命誕生

- ①誕生の背景—太陽、月、地球の奇跡—
- ②ストロマトライト¹⁸—地球上の酸素を生み出した微生物—
- ③縞状鉄鉱石¹⁹—生命と人類を支えた金属—
- ④チムニー²⁰と深海底生物—原始生命のゆりかご—
- ⑤全球凍結²¹と生命大爆発—エディアカラ動物群・バージェス動物群²²—

-2 生物の進化

- ①進化とは何か 環境×進化×時間＝生物多様性
- ②食う・食われる・追う・逃げる—魚類の進化—
- ③最初の陸上植物—無から有を生み出す光合成・植物の進化—
- ④陸上脊椎動物の進化—安全確実に子孫を残すための戦い—
- ⑤生物の大進化と大絶滅—生物の進化はピンチが生みだした—

-3 北海道の化石

- ①北海道の化石・アンモナイト
- ②北海道の化石・は虫類→クビナガリュウ、モササウルス²³
- ③北海道の化石・ほ乳類—鯨偶蹄類・海牛類・鰭脚類・長鼻類・束柱類・奇蹄類—

-4 札幌・石狩低地帯の化石

- ①札幌の環境—N43°の幸運—
- ②サッポロカイギュウ—海牛の進化—
- ③小金湯クジラ—鯨の進化—
- ④貝化石群集の変遷



サッポロカイギュウ

-5 人類

- ①哺乳類とは
- ②ヒトとは…—人体に残る進化の跡—
- ③生き残りの原則—ピンチはチャンス!食べる!! 仲間を増やせ!!!—

¹⁸ ストロマトライト：藍藻類。光合成によって酸素を作り、大気中に放出した初期の生物。

¹⁹ 縞状鉄鉱石：海洋中に放出された酸素によって酸化され、海底に堆積したとされる鉄鉱石。

²⁰ チムニー：海底の熱水噴出によって噴出孔の周辺に形成された煙突状の構造物。

²¹ 全球凍結：地球全体が氷に覆われた状態。凍結によって大絶滅がおり、その後飛躍的な生物進化が起こったとされる。

²² エディアカラ動物群：約6億年前南オーストラリアの原始的動物群、バージェス動物群：約5億年前カナダの無脊椎動物群。

²³ クビナガリュウ、モササウルス：北海道の白亜紀を代表する海生爬虫類。

サブテーマ3：さっぽろの自然と人類の共生

札幌は国内でも有数の急流河川である豊平川によって形成された扇状地に拓けた街です。扇状地は豊平川の大洪水のたびに成長し現在に至っています。人間の側から見ると自然災害の証ですが、現在では、水はけのよい安定した大地となり、人々の生活の基盤となっています。また、定山溪・小金湯の温泉は、火山活動によるマグマの熱が供給源になっています。このように、札幌には、厳しい自然と、その恩恵を受けて営まれた歴史や人々の暮らしが刻まれています。

札幌での暮らしには、人間による自然の改変と、厳しい自然の中でいかに衣食住を確保するかが最大の課題でした。現代において自然と人類の共生を考える時、北海道の自然と調和して誕生したアイヌ文化にみられる、ウレシパ・モシリ²⁴という自然と人を融合してとらえる自然観と、それに基づく暮らしを自然史の視点で明らかにすることは、これからの方向性を見出すひとつの参考になるかもしれません。

【サブテーマ3のシナリオ案】

-1 サッポロのヒト

- ①脱アフリカの挑戦と残された証拠ーミトコンドリアDNAと乳糖不耐性²⁵ー
- ②シベリアから進入したマンモスハンター²⁶ー札幌の旧石器ー
- ③気候変動と新石器文化
- ④アイヌの自然ーウレシパ・モシリの科学ー
- ⑤日本人の起源：縄文系・弥生系ー私たちの縄文度・弥生度ー

-2 札幌の自然

- ①札幌の四季ー札幌の四季を決定する要素
- ②札幌の気象

-3 自然との共生

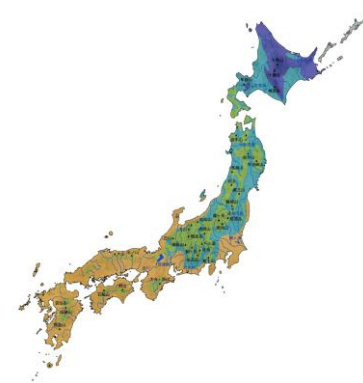
- ①扇状地という自然・残された原始林
- ②豊平川の魚ーサケの進化と回遊の仕組みー
- ③札幌の野鳥ーわたりー
- ④クマ・シカ的生活史と人との共生



豊平川扇状地と西部山地（環境局提供）



火山活動の恩恵・定山溪温泉と豊平川によって削られたV字谷



日本列島の植生分布

²⁴ ウレシパ・モシリ：アイヌ語で「育み合う大地」。自然と人を一元的にとらえ、自然と人の共生をあらわした自然観。

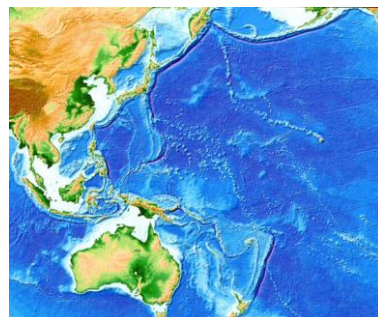
²⁵ 乳糖不耐性：乳糖の消化酵素がないため牛乳を飲むと下痢などの症状を起こすこと。

²⁶ マンモスハンター：マンモスを代表するマンモス動物群を狩猟の対象とした北方系民族の一群。

サブテーマ4：さっぽろの交流史

ユーラシア大陸の東縁に浅い海峡をはさんで並び日本列島は、地球規模の寒暖に同調した海水準の上昇下降にあわせ、大陸との接続と分断を繰り返してきました。日本に進出した人類は、寒冷期の海水面低下を利用し、約4～3万年前に朝鮮半島から、約2万年前にはサハリンからマンモスを追って進入しており、以降、「北方系」と「南方系」の自然と文化が交流した歴史を持ちます。

氷期が明け、温暖化した日本列島には、マンモス等の大型獣が姿を消した代わりに、南方と北方、両方の恵みを楽しむことができる温帯落葉広葉樹林が東日本を覆い、豊かな森の恵みを利用した縄文文化が東日本を中心に形成されました。札幌はこの縄文文化の北端、北方特有の冷温帯針広混交林の南端に位置することから、道南以南および、千島・オホーツク方面やサハリン方面からも異なる文化が入ってきましたが、これらは、互いに排除しあうことなく、交流・融合しながら北海道独自の文化を形成していきました。



島弧海溝系

【サブテーマ4のシナリオ案】

-1 島弧海溝系²⁷と海峡の成立

- ① 気候変動と海峡の成立
- ② 気候変動と動物群の移動（北広島動物群→周口店動物群→黄土動物群²⁸）
- ③ 生物境界線と現在の生物相
- ④ 森林の植生を背景にした文化の成立
- ⑤ 札幌から広がった動植物：セイヨウタンポポ、ザリガニ…

サブテーマ5:さっぽろの形成史

ロシア帝国の南下政策は14～19世紀に地球規模で起こった小氷期が大きな要因と考えられています。これに江戸幕府や明治政府が強い脅威を感じたことをきっかけに北海道の急速な近代化が進められ、札幌に様々な人々たちが送られました。

江戸末期から明治初期にかけての札幌のまちづくりは、幕府、政府の主導により、短期間のうちに巨費が投じられて急速に開拓が進められ、原生の自然環境は激変しました。しか



市街地之図（明治32年）札幌市公文書館

²⁷ 島弧海溝系：弧状列島と海溝が平行に形成される活動帯。プレートの沈み込みによって形成される。

²⁸ 北広島動物群、周口店動物群、黄土動物群：各地域で産出したある時代の動物化石群。

し、現在も、かつて市街地を流れた川の削った起伏や河畔に自生したハルニシの巨木等、開拓当初の景観を彷彿とさせる地勢や植生を市内の随所に見る事ができます。

豊平川扇状地の上に形成された札幌の市街地は、地質や地形を熟慮したまちづくりが行われ、一見すると碁盤の目のように整然と統一して整備された近代的な都市のように見えますが、開拓の歴史を見ると、それぞれ異なった開拓団が市内各地に入植し、各地域の自然や地勢を活かしながら独自に街を拡大していったことから札幌特有の街並が形成され、今日に至っていることがわかります。



ファイターズ通り（旧斜め通り）は伏籠川に沿って作られた道路

【サブテーマ5のシナリオ案】

-1 14～19世紀の小氷期がもたらした世界動向

- ①気候変動と飢饉—ロシアのシベリア開拓と太平洋進出の理由—
- ②北方海域調査：『東方見聞録』『ガリヴァ旅行記』—最後に残されたユートピア—
- ③日本の飢饉と蝦夷地開拓—日本の探検家たち—
- ④本府札幌設置の自然背景
- ⑤フロンティアの人材

-2 街並

- ①ジオラマ展示—人々の暮らしと街並形成の自然背景—
- ②今昔 AR 配信
- ③札幌の開墾事業
- ④道路開削と市街地の形成—札幌のふしぎ—
- ⑤札幌の災害（洪水・地震・津波・豪雪・火山・地崩れ）

-3 農業

- ①米
- ②野菜（玉葱、大根…）
- ③果物（リンゴ…）

-4 十区十史、十人十色コーナー

-5 札幌の色






創成川と創成橋

資料 4. 札幌博物館における3事業の具体例

- ・感動伝達事業（エモーション事業）
展示や普及・交流活動を通して、札幌の魅力（独自性）を伝えることで、感動し、興味を持ってもらう機会を提供する役割を担う事業
- ・地域課題解決事業（ソリューション事業）
資料の収集・保存、調査・研究業務を基盤とし、活動の成果を活かして地域の課題を自然と人の関わりの観点から解決する役割を担う事業
- ・つながり創出事業（リレーション事業）
博物館で様々な人や物が出会い、そこから生まれた成果をネットワークを使ってまち全体に広げることで、博物館活動の活性化を図る事業

事業の具体例		
名称	概要	関連事業分野 ※関連分野は赤丸
館内ガイドツアー	展示室から収蔵庫まで学芸員のガイド付きで館内を巡る	エ ソ リ
館外1hour ツアー	手短に誰でも気軽に参加できる自然・文化資産の現地ガイドツアー	エ ソ リ
バックヤードツアー	普段は見るできない収蔵庫等、博物館の裏側をガイドするツアー	エ ソ リ
モバイルお散歩 ミュージアム	市内を巡るためのガイドとなるスマートフォン用アプリの開発	エ ソ リ
お助けミュージアム	夏休みの宿題から自主研究のお助けまでカバーするよろず相談窓口	エ ソ リ
お届けラボ	あらゆる場所に出向き、一緒に調査・研究を実施する移動実験車	エ ソ リ
メンバーシップ研究員制度	特定の分野の知識や経験を持つ市民に研究環境を提供し、協力依頼	エ ソ リ
オープン・レク	学芸員と自由で気軽なトークができるミニ・オープン・カフェ	エ ソ リ
オープン・ラボ	標本作製等、ボランティア活動に開放し、活動に参画するきっかけづくり	エ ソ リ
オープン・ファクトリー	展示や標本・グッズ製作等、館内の活動に自由に参加できる機会	エ ソ リ
アウトリーチ・プログラム	学校や児童会館をはじめ、あらゆる場所に出向いて展示解説を展開	エ ソ リ
eミュージアム配信	映像・情報コンテンツ、教材等を、ウェブを通して定期的に配信	エ ソ リ

【凡例】  感動伝達(エモーション)  地域課題解決(ソリューション)  つながり創出(リレーション)

資料5. 地域課題解決事業（ソリューション事業）の展開例

【例1】まちの魅力創造に貢献

学際的な成果にもとづく同時多発的な取り組みで
話題性を提供するとともに、まちに新しい人の流れをつくりだす

想定
される
つながり拠点

- 札幌市管轄の資料館・文化施設等
- 北海道博物館、北海道大学総合博物館
- 市内・道内外の博物館

連携の
ための
方策

- 互いの得意分野の視点から、共通のテーマに基づき調査・研究を実施するとともに、そのテーマに基づき同時多発的に企画展を実施

期待
される
効果

- 様々なアプローチにより、市民や観光客がより深く札幌に触れることが可能
- 話題性の提供で札幌への来訪者が増加



例：市内中心部の湧水の痕跡を巡検（北海道大学総合博物館など関係機関との連携事業）

【例2】地域の疑問を調査し、身近な課題を解決

移動実験室やモバイル展示を活用して市内全域へ移動し、
地域の疑問や身近な課題を地域の子どもたちとともに解決する

想定
される
つながり拠点

- 市内小・中学校、高等学校等
- 各地の市民活動団体
- 市内児童会館、町内会 等

連携の
ための
方策

- 学校、教員との事前協議
- 多様なアウトリーチ活動
- 地域の研究団体との協働

期待
される
効果

- 地域を自ら知る活動で郷土への愛着と誇りを醸成
- 地域の魅力を地域から発信
- 地域学習における手法の幅の拡がり



移動実験室やモバイル展示を用い、
地域で調査や研究の成果を展開するイメージ

資料6. つながり創出事業（リレーション事業）の展開例

教育機関との連携とその内容

項目	つながり拠点	具体的な内容
学校教育	幼稚園・保育園 児童会館	・博物館での幼児向けプログラム展開 ・幼稚園等へ向けたアウトリーチ活動等
	小学校・中学校	・学校付属の郷土資料館との相互連携、アウトリーチ活動 ・理科・社会科等のカリキュラムに合わせた博物館授業等 ・札幌の自然に関する小冊子の検討 ・モバイル展示の積極展開等、空き教室の効果的な利用 ・部活動、クラブ活動への支援
	高校・大学	・授業・講座の単位認定、実習の受け入れ等 ・フリースクールによる単位取得等 ・部活動、クラブ活動への支援
	特別支援学校	・展示のユニバーサルデザイン

連携の検討例

【例1】道内を中心とした博物館

他館との学際的な研究を通し、あらゆる角度から札幌を再認識
新たな研究成果を札幌から世界に発信

連携の
実施
内容

- ・テーマを統一する等の共同展・合同展の開催
- ・資料の貸し借りによる展示、普及・交流活動
- ・異なる専門分野が連携した学際的な研究

期待
される
効果

- ・相乗効果による博物館利用者の増加
- ・展示、普及・交流の幅が広がり、満足度が向上
- ・新しい学際的な研究成果



【例2】小学校・中学校

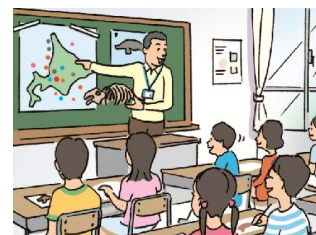
アウトリーチ活動や子どもたちの自主的な調査活動を通し、
札幌市民としての郷土への愛着と誇りを育む

連携の
実施
内容

- ・学校へのアウトリーチ活動(出前教室等)
- ・博物館に向いた理科・社会科等の授業
- ・子どもと協働したフィールドの調査

期待
される
効果

- ・実物等を交えた教育でより深い関心や理解
- ・子どもたちの理科離れ対策の有効な一方策
- ・教育普及に関する研究データの蓄積と反映



【例3】教育委員会及び教育機関

札幌という郷土を学ぶために独自の教材や教育システムを開発
新たな地域学習のあり方を札幌から全国に発信

連携の
実施
内容

- ・保育園や幼稚園児向けの独自教材開発
- ・フリースクール²⁹と連携した学習プログラムの実施
- ・博物館を起点とする教育システムの開発・評価

期待
される
効果

- ・より深く地域を知る教育で郷土愛向上に寄与
- ・札幌から新たな地域学習のあり方を発信
- ・地域学習における手法の幅の広がり



29 フリースクール：主に不登校の子どもを対象とした、教科の選択等に生徒の自主性を重視する学習法を取り入れ、従来の学校のような管理や評価等を行わない教育施設。

ツアーミュージアム検討例

【例1】さっぽろの生命と生物の進化

海底地くずれや古生物の痕跡を見学し
数々の環境変動を経て生命が誕生し、進化してきたことを学ぶ

ツアー
コース

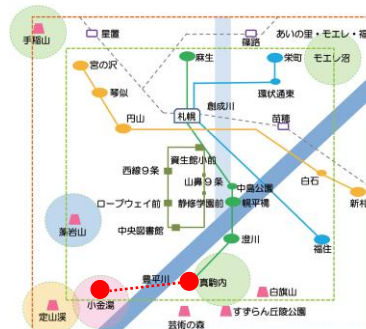
- つながり起点:アイヌ文化交流センター→砥山ダム(地層見学・化石採取)→小金湯

ツアー
内容

- 札幌の自然の独自性を実感する
- 化石発掘地の見学や化石発掘体験
- 海底地くずれ跡等や断層の見学

期待
される
学び

- 札幌は世界でも特殊な位置環境であることを知る
- 札幌に生息していた古生物について知る
- 環境変動の痕跡から、札幌の環境変遷を実感する



【例2】さっぽろの社会と街並

市街地をめぐりながら、開墾の証を確認し
今日にいたるまでの札幌のまちづくりのあり方を学ぶ

ツアー
コース

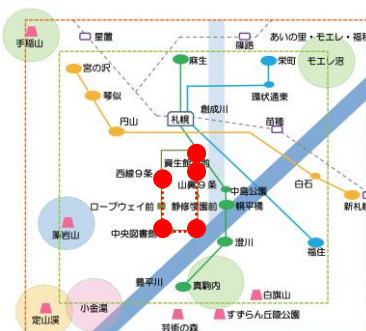
- 札幌博物館を起点とし、市電全線を乗り降りする

ツアー
内容

- 大通・創成橋
- 本願寺道路
- 山鼻屯田兵の町割り見学

期待
される
学び

- 札幌の開拓の歴史を知る
- 市街地に開拓使入植による開墾の証が残ることを知る
- 歴史を知り、まちの未来を考えるための契機となる



【例3】さっぽろのメムを巡る

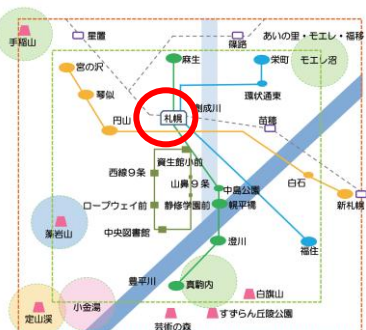
<コース> …右図の○部分
博物館→知事公館→北大植物園→偕楽園→
サクシコトニ川(北海道大学構内)
→北海道大学総合博物館

ツアー
コース

- 市内に残るメムの見学
- メムの残した特徴的な地形の観察

期待
される
学び

- 豊平川扇状地の恵み・メムをたどりながら、自然と人が共生しながら暮らしてきた歴史を学ぶ



資料7. 施設計画の参考資料

資料

政令指定都市がある都道府県立博物館、政令指定都市立博物館、及び三重県総合博物館

都道府県	都市名	館名	施設規模 (㎡)										部門別面積 (㎡) と延床面積に占める割合 (%)										立地・運営形態										職員数 (人)									
			創設 主体	開館年	敷地面積	延床面積	常設 展示	特別 展示	展示室 割合	調査 研究	収蔵 保存	収蔵 割合	展示 割合	教育 普及	管理 割合	その他 共用	割合	立地	公共 交通の便	駐車場の 有無	管理 方式	職員 合計	常勤 職員	割合	非常勤 職員	割合	内訳	常勤 職員	割合	非常勤 職員	割合	常勤 職員	割合	非常勤 職員	割合							
北海道	札幌市	北海道開拓記念館	S46 (1971)	4,107	12,945	3,613	489	4,102	32%	515	4%	2,349	18%	4,102	32%	548	4%	1,942	15%	3,489	27%	20	47%	20	36%	9	16%	0	0%	0	0%	0	0%									
宮城県	仙台市	仙台市博物館	S36 (1961)	19,758	10,833	1,849	775	2,624	24%	205	2%	1,902	18%	3,136	29%	410	4%	384	4%	4,797	44%	2	32%	2	6%	6	19%	11	35%	0	0%	0	0%									
埼玉県	さいたま市	埼玉県立歴史と民俗の博物館	S46 (1971)	12,754	11,364	2,658	1,054	3,712	33%			1,417	12%	4,984	44%					4,963	44%	4	58%	4	11%	9	25%	0	0%	0	0%	0	0%									
千葉県	千葉市	さいたま市立博物館	S55 (1980)	1,571	2,330	389	156	546	23%	207	9%	392	17%	593	25%	207	9%	197	8%	734	31%	0	30%	0	0%	5	50%	1	10%	0	0%	0	0%									
		千葉県立中央博物館	H1 (1989)	13,178	15,254	4,014	277	4,291	28%	558	4%	4,151	27%	4,291	28%	645	4%	458	3%	5,151	34%	0	77%	0	0%	6	11%	4	7%	0	0%	0	0%									
神奈川県	横浜市	神奈川県立歴史博物館	S58 (1983)	8,661	2,416	1,156	277	1,433	59%													28	5	18%	11	39%	6	21%	6	21%	0	0%	0	0%								
		神奈川県立歴史博物館	H7 (1995)	4,161	10,565					1,306	12%	619	6%	3,896	37%	386	4%	1,251	12%	3,108	29%	0	20%	4	8%	20	40%	14	28%	0	0%	0	0%	0	0%							
新潟県	新潟市	新潟県立自然科学館	S63 (1988)	25,358	19,542	3,768	600	4,368	22%	909	5%	2,433	12%	6,125	31%	2,409	12%	3,801	19%	3,864	20%	37	10	27%	8	22%	9	24%	8	22%	0	0%	0	0%								
		新潟県立自然科学館	H7 (1995)	9,999	9,510	1,297	487	1,784	19%	1,038	11%	1,570	17%	1,907	20%	453	5%			4,542	48%	28	7	25%	0	0%	17	61%	3	11%	0	0%	0	0%								
愛知県	名古屋市	名古屋市立自然科学館	S56 (1961)	36,656	15,315	6,517	226	6,743	44%	335	2%	712	5%	8,920	58%	434	3%	549	4%	4,365	29%																					
		名古屋市立自然科学館	H16 (2004)	8,940	5,508	840	318	1,158	21%	252	5%	964	18%	1,439	26%	553	10%	154	3%	2,147	39%	16	7	44%	1	6%	4	25%	1	6%	0	0%	0	0%								
大阪府	大阪市	名古屋市立自然科学館	S52 (1977)	15,100	18,822	1,868	963	2,831	15%	884	5%	3,187	17%	4,267	23%	844	8%	3,115	17%	5,298	28%	42	17	40%	5	12%	15	36%	2	5%	0	0%	0	0%								
		大阪市立自然科学館	H13 (2001)	13,000	23,694	4,118	893	5,011	21%	470	2%	2,188	9%	5,011	21%	976	4%	451	2%	14,598	62%	32	18	56%	1	3%	11	34%	0	0%	0	0%	0	0%								
兵庫県	神戸市	神戸市立自然科学館	S49 (1974)	6,743	12,066	3,066	765	3,831	32%	1,803	32%	1,972	16%	3,831	32%	860	7%	316	3%	3,284	27%	25	13	52%	0	0%	11	44%	0	0%	0	0%	0	0%								
		神戸市立自然科学館	S57 (1982)	3,053	10,073	2,048	782	2,830	28%	412	4%	1,950	19%	3,065	30%	844	8%	251	2%	3,552	35%	23	11	48%	0	0%	10	43%	0	0%	0	0%	0	0%								
福岡県	福岡市	北九州市立自然科学館	H14 (2002)	約31,000	17,011	5,630	509	6,139	36%	871	5%	2,506	15%	6,139	36%	1,315	8%	624	4%	5,556	33%	36	18	50%	0	0%	16	44%	0	0%	0	0%	0	0%								
		福岡市立自然科学館	H2 (1990)	50,649	16,729	2,810	1,499	4,309	26%	395	2%	2,129	13%	4,552	27%	923	6%	825	5%	7,905	47%	36	15	42%	4	11%	8	22%	9	25%	0	0%	0	0%								
三重県	津市	三重県総合博物館	H05 (2014)	38892	10,779	820	1,078	1,898	18%	690	6%	2,618	24%	2,048	19%	1,620	15%	435	4%	3,368	31%																					
対象	19館	平均値	-	18,092	12,317	2,665	639	3,324	-	672	-	1,942	-	3,924	-	827	-	949	-	4,673	-	34	15	-	4	-	11	-	3	-	-	-										